

さがみおおやまえんぎおよびもんじょ

## #34 相模大山縁起及文書

作者：石野瑛（いしの・あきら 1889-1962）

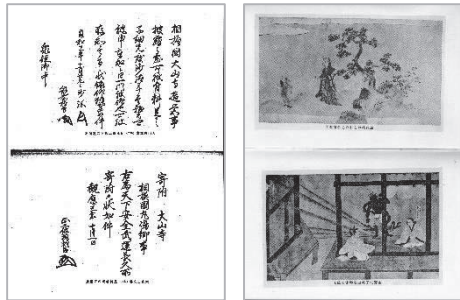
刊行：昭和6年（1931）



### 📖 解題

#### ■ 内容

大山阿夫利神社及び大山寺所蔵の絵巻や古文書などを収録したものである。収録する各文献は「大山縁起絵巻」「大山関係古文書」「大山記録」の3種に大別され、巻頭の「相模大山縁起文書記録に就いて」



[K18.64/38] [291.37/175]

において、校訂者の石野瑛が解説を加えている。巻末には石野の論稿「平塚及び附近の史的概観」も掲載する。

「大山縁起絵巻」には、大山寺所蔵の上下巻26図のうち、「染屋時忠の愛児鷲に攫はる」「猿に扶けられたる金鷲童子」など12図の影印を抜粋して掲載している。「大山関係古文書」には、阿夫利神社所蔵の源頼朝の寄進状や足利尊氏の祈請状など、20点の影印を収録している。

「大山記録」としては、大山寺所蔵の「大山寺縁起」及び「山王縁起」、阿夫利神社所蔵の「明王太郎来由」の3種類の大山縁起の翻刻を収載している。

また、明治期に大山寺の住職らによって編まれたとする「大山史」の稿本や、明治時代に阿夫利神社の祠官を務めた内海政雄による「阿夫利神社古今事記」の稿本の翻刻も収めている。

本書は、石野が主宰する武相考古会による『武相叢書』の第3編として出版された。『武相叢書』は、「武相文化史研究上価値多きもの」を選び逐

### 第3章 思想・宗教

次刊行するとして、昭和4年(1929)から16年(1941)年にかけて、計10冊が刊行された。『武相叢書』のうち考古部第4編を除く9冊は、昭和48年(1973)に名著出版から復刻版が刊行されており、印刷不良による欠字箇所への補訂などが行われている。

#### ■ 作者

作者の石野瑛は福井県坂井郡丸岡町生まれ。神奈川県師範学校を卒業後に沖縄県那覇天妃小学校長となり、在任中の数年間に『琉球大観』、『南島の自然と人』などの文献を著した。大正6年(1917)には横浜金港実業補習学校を設立し、学校長に就任した。教育活動に従事しながら早稲田大学で学び、大正12年(1923)に文学部史学科を卒業した。その後は関東学院や神奈川県立横浜第二中学校などの教諭を経て、昭和17年(1942)に横浜市港北区篠原町に武相中学校を、同23年(1948)には武相高等学校を設立し、学校長となった。

教育活動の傍らで歴史家・考古学者としても精力的に活躍し、多くの史跡調査を行い、また、多数の著作を執筆した。主な著書に『武相考古』や『横浜近郊文化史』などがある。昭和28年(1953)に神奈川文化賞、同35年(1960)に文化財保護委員会より文化財功労者として表彰を受けた。

#### 📖 参考文献

<復刻>

『相模大山縁起及文書 復刻版』石野瑛著 名著出版 1973(武相叢書 第3編) [K18.64/1A]

<参考文献>

『武相研究印象記:石野瑛氏還暦記念誌』武相文化協会 1949(武相文化第3輯) [K20/2]

『相模大山縁起 上:神奈川県語り物資料』神奈川県教育庁指導部文化財保護課 1970(神奈川県民俗シリーズ 7) [K38.61/4/1]

松本信道「漆部直伊波と染屋時忠:良弁伝研究の一助として」(『論集奈良仏教 第3巻 奈良時代の僧侶と社会』雄山閣出版 1994 [182.1/15/3])